
ヒール最高

猫美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒール最高

【Nコード】

N0815Z

【作者名】

猫美

【あらすじ】

おかしい。会社帰りの電車の中だったハズなのに。
気がついてみれば赤ん坊。

ああ・・・転生モノってヤツですか。

ストンと納得してしまう。そこから始まる第二の人生。
魔法のあるファンタジーな世界じゃないですか。

ふっふっふ。となれば、当然ヒールですよ。ヒール。

攻撃魔法？興味ないですな。はっはっは。

／表現が苦しかったとしても一人称の視点を切り替えながら展開し

ていきたいと思っています。頭の中身を書き出すのに慣れていない
為、どうか気長におつきあいいただければと思います。

ギャン泣きした日

記憶がはつきりしないのだが、あまりの息苦しさで頭痛に思わず泣いた。

大声を出して泣いた。

ギャン泣きつて奴だ。

我ながら、恥ずかしいのだが・・・どうにも苦しかったのだ。頭痛も、締め付けられるような頭痛で泣いた。

いやいや。

ほんと、もうスゴいんだって。

思わず大の大人がギャン泣きするレベル。

大声を出して泣いたので、ちょっとすつきりした。

周囲を見回すが・・・どうにもうまく見回せない。

自分の状況が理解出来ない。

茶髪の看護婦さんが覗き込んで来る。

看護婦さんが何かを喋っているのだが、理解が出来ない。
「なんですか？」

と聞いたつもりなのだが、きちんと喋れたのか怪しい。

耳の調子は何やら変だ。

自分の状況が理解出来ない。

理解出来ないのだが、猛烈に眠い。

フェードアウト。

状況を整理しよう。

どうやら、赤ん坊らしい。

あまりの事に、頭の中が真っ白になったが、事実は事実として受け止めた。

夢なのかと何度も疑ったが、日常が連続しているので、事実のようだ。

ああ、転生モノって奴かと、変な理解をした。

見た感じ、SFモノって訳では無さそうだ。

どちらかというと、ファンタジー系。

魔法の有無は未確認。

相変わらず、周囲の人が何を喋っているのかは解らないが、隣に横たわっている可愛い人が母親のようだ。

ちよっと嬉し恥ずかし。

見つめられると照れる。

茶髪なんだけど、日の光が当たるとキラキラと輝いて、実に綺麗だ。

前世（？）の最後の記憶は、仕事帰りの電車の中だ。

珍しく席が空いていたので座ったら、沈み込む座席のあまりの気持ちよさに眠ってしまった。

そこから先の記憶が無い。

事故にでもあって死んでしまったのか、脳卒中でも起こしたか。

まあ、考えた所で、寝ている最中に起こったことだ。

意識不明で集中治療室に運び込まれ、身体からは各種ケーブルが延びている状態なのかも知れないが、解らないモノは解らない。

心配してもどうにもならない。

ならば・・・取り敢えず寝よう。

考え事していると・・・とかく眠い。

フェードアウト。

あれから数日経った。

相変わらず、何を言っているのか解らない。

解らないが、母親は可愛い。

父親は・・・ちよつと厳ついが、自分を見てデレデレに蕩けていた。どうやら、良い両親の元に生を受けたようだ。

さて・・・日がな一日、暇で仕方がない。

会話も出来ないし、そもそも、動くこともままならない。

母親とお医者さん、看護婦さんの会話をじゅつと聞いているくらいか、自分の今後の展望について考えるくらいだ。

まあ、展望を考えるとと言っても、どういう世界なのが解らないので何とも言えない。

社会人になって、学業から解放されて久しいのだが、また、1からやり直しかと思うとげんなりする。

あの時、こうしていれば・・・という後悔に対し、やり直すチャンスを得たのだ。と考えれば、案外悪くない。

そついう考え方が出来るのも、前世の記憶があるからな訳だが・・・

ふと、心配になるのが、この前世の記憶って奴はいつまで残っているか？と言うことだ。

無くなっても困ることはないんだろうが、あると便利に違いない。消えないといいなあ。

それにしても、会話が出来ないというのはもどかしい。

赤ん坊という奴は、どうやら身体の部位をうまくコントロール出来ないから喋れないようだ。

実にもどかしい。

喋ろうと思うと、「うー」とか「あー」になってしまう。

とか考え事していると眠気が襲ってくる。

まあ、逆らう理由もないので寝るとしよう。

フェードアウト。

ギャン泣きした日（後書き）

Twitter @nekomihonpo

発声記念日

2歳になった。

日々、訓練を重ねたお陰で、喋れるようになった。

初めて「とうさま、かあさま」と喋った時、すごい喜びようで、もみくちやにされた。

まだまだ舌つ足らずではあるが、意思の疎通が出来るというのはスバラシイ。

まだまだ単語が解らないが、地道に憶えていくしかないだろう。ありがたいことに文法は日本語に近い。

文字は、まだ解らないが・・・中国語みたいだと大変だなあ。くらいに楽観視している。

自分の名前は、ウィル・ランカスター。

ランカスター家の長男だ。

母親は、リリーレルマ・ランカスター。

可愛い系のおっとり美人。

授乳の時、気まずかったのだが、コチラが一方的に気まずいだけだ。

父親は、ウィンザー・ランカスター。

見た目は厳ついが、母親や私に対してデレデレに蕩けるあたりのギヤップが酷い。

公務員という表現が正しいのかは解らないが・・・公務員のようなお陰で、良い暮らしをさせて貰っている。

・・・他と比較したことがないので解らないが、少なくとも、お手伝いさんの居る家庭は一般以上貴族未満だろう。たぶん。

ファンタジー系の転生モノで確定のようだ。

ケガをした時に、母親が治癒魔法を使ってくれた。
いいね。治癒魔法。スバラシイ。

まだ、世界情勢とかは解らないが、治癒魔法を憶えて損はないはずだ。

ファンタジー系ってことは、RPGみたいな世界観ってことだ。

治癒魔法至上主義とでも言おうか・・・RPGでとにかく優先すべきは治癒魔法だ。という偏った考え方をしている。

いいぞ。治癒魔法。

回復にお金が掛からない。

つまり、装備にお金が回せるんだ。

魔法というと、攻撃魔法に目が行きがちだが、私は断然治癒魔法だ。死ななければいいのだ。

・・・おっと、ついつい暴走してしまった。

そんな訳で、治癒魔法には一方ならぬ思い入れがあるので、がんばって使えるようになりたいと思う。

治癒魔法の才能があるといいなあ。

発声記念日（後書き）

T
w
i
t
t
e
r @n
e
k
o
m
i
h
o
n
p
o

発声記念日のリリーレルマ（母親）

ウチの子は、ちょっと他所とは違うらしいの。

お母様から、

「子育ては大変よ。夜泣きで夜も寝てられないんだから」とか、

「男の子は大変よ。目を離すとすぐにやんちゃするんだから」とか・・・散々脅されていたのに・・・夜泣きらしい夜泣きを経験したことがないの。

まさか、私が気がつかずに寝ていたの！？と心配になったのだけれど、ノイナも夜泣きを聞いたことがないっていうし。

夜泣きもさることながら、昼間もあり泣かないの。あまり・・・という表現が控えめ過ぎるくらい泣かないの。

あまりにもおとなしいので、心配になってお医者様に相談したのだけれど、

「心配のしすぎですよ、ランカスター夫人。」

お子さんは順調に育っていますよ」

と笑顔で言われてしまつて、喜んで帰ってきたのだけれど・・・ウチの子は大人しすぎるのではないかしら？

ノイナに聞いても、

「ウィル坊ちゃんは賢い子です。」

こちらの言っていることは理解しているようだし、ダメと言ったことは守っているように見受けられます。

確かに、ちょっと静かな感じは致しますが」

なんてことを言うし。賢い子なんて言われてしまつて、思わず嬉しくなつて頬が緩んでしまつたわ。

それにしても、子供って不思議。

何を言っているのか理解しようとしているのか、じつところこちらを見つめてるの。

こちらが気がついて訪ねてみると、

「ん？」

って首をかしげて・・・もう可愛くて可愛くて、思わずだっこしてしまうわ。

不思議と言えば、不思議な遊びをするのね。

部屋の隅の方で、

「あー」

とか

「うー」

って言っていたかと思うと、

「あーえういうえーおおー」

とか呪文みたいなこと言い始めるし。

ノイエに聞いても、

「初めて聞きました」

って言うし。

あれは何なのかしら？

可愛らしいからだっこしてしまうのだけれど。

もうすぐ2歳になるうかという頃に、ウィルがしゃべってくれたわ。

もう嬉しくて嬉しくて・・・ウィンなんか、もう大喜び。

「とうさま、かあさま」

なんて可愛らしい声で呼んでくれて、ウチの子は天使なんじゃないかって思っちゃった。

でも、いきなり、

「とうさま、かあさま」

なんてしゃべったので、ノイエも驚いていたわね。

ウチのウィルは知識欲の塊ね。

「かあさま、あれはなに？」

「これはなに？」

と質問責め。

色々な物に興味津々で聞いてくるわ。

そういえば、ノイエがお手伝いさんだっことを理解していたみたいだけれど・・・ノイエにでも聞いたのかしら？

ドンドンドンガン！という音が聞こえて、慌てて廊下に出たら、ウィルが階段から落ちて倒れていたの。

慌てて叫びそうになってしまったけど、落ち着いて深呼吸を繰り返したわ。

私が慌てるとロクな事がない。

まずは落ち着けて散々、お母様に言われていたからかしら。

「ウィル坊ちゃま。大丈夫ですか？」

ノイエが駆けつけて声を掛けてくれたの。

冷静になってからウィルの様子を見ると、頭を軽く切ってしまったみたい。

頭なので血が凄いことになっているのだけれど、ウィルが、

「ノイエ、かあさま・・・だーじょぶです。

ていけつをおねあいています」

ってしっかりとした受け答えをしたので、かなり落ち着けたわ。ウィルをそっと抱きしめて、

「聖なる魂よ。どうか、私の息子、ウィルの傷をお癒してください」

と、ヒールを唱えたので、傷は治ったの。

「かあさま・・・いまのは・・・まほーですか？」

「ええ、そうよ。癒しの魔法。もう大丈夫かしら？」

「あい。だーじょぶです。それよりも、まほーのことをおしえてく
あさい」

もう、目をキラキラさせて、魔法に興味津々。

まだ難しいと思うのだけど・・・熱心に聞いていたわ。
将来は大魔道士でも目指すのかしら。

発声記念日のリリーレルマ（母親）（後書き）

Twitter @nekomihonpo

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0815z/>

ヒール最高

2011年12月3日18時46分発行